

西国巡礼慈悲の道

西国第六番

壺阪山

壺阪寺

感謝で心を大きく

山主 常盤勝範

皆さんが観音さまに会う

ために歩いている道、この

道には千年以上の歴史が刻

まれ、多くの方々が、観音

さまの慈悲に触れようと、

懸命に歩かれました。その

道を私達は歩き、観音さま

のご宝前に参り、ご朱印を

頂き、また、次の札所にそ

の歩を進めます。この道を

受け継いでくれてきた先達

の皆様にも感謝しながら巡

礼して頂きたいと思えます。

感謝という言葉、大事だ

けど忘れがちな言葉です。

自分の思い通りに物事が進

んでいる時、人は感謝の言

葉を周りに述べます。逆に、

自分には都合の悪いように

物事が運ぶと、感謝の言葉

ではなく、人を罵ったり、

自分を責めたりします。感

謝の言葉の使い方も自己都

合で、変わってしまうこと

がよくあります。

壺阪寺御本尊十一面千手

観音菩薩像の中央の大きく

合掌している手は、全てに

感謝することを表し、自分

の都合ではなく、今生きて

いることに対する大きな感

謝の心をもつことを私達に

教えてくださっています。

混沌の度を深めていく現

代の社会、それに呼応する

かのように様々な情報が乱

れ飛ぶため、先行きへの不

安が心を支配してしまいま

す。そうなるかどうかして

日常の事が疎かになってし

まいます。日常全てが当た

り前だけ先行きは不安で、

駆り立てられるように生き

てしまっていないでしょう

か？

日常の小さなことでも構

わないので、もう一度、自

分が感謝しないといけない

ところはないか探して下さい。

そして、どうしても不

安が先に立っている自分の

心から当たり前という言葉

をできるだけ消し去り、感

謝という言葉で満ち溢れる

ようにして頂きたいと思

います。このような心を持

つことを観音さまは説かれて

いると思います。

合掌



西国第六番

壺阪山 壺阪寺(南法華寺)
つばさかであら

真言宗

御本尊／十一面千手千眼観世音菩薩 開基／弁基上人

いわをたて みずをたたえて つばさかの

にわのいさごも じょうどなるらん

観音風光

壺阪観音は眼病に靈験があり、江戸時代に次のような話がありました。夫・沢市の目を開くため、妻のお里が壺阪観音に千日参りを行うが、目が開かなかつた。沢市はその身を本堂横の谷に投げ、その後をお里が追うが、観音が現れて二人の命を助け、沢市の目を開いたと伝えられています。その靈験は「壺阪観音靈験記」に著され、歌舞伎等で演じられています。

主な年中行事

- 一月一日～三日 新春初祈祷会
- 一月十八日 初観音
- 二月一日～四日 節分、星祭り祈願会
- 三月十八日～二十四日 彼岸会
- 五月十八日 眼病封じ祈願会
- 七月 夏期大学
- 八月十八日 大施餓鬼会
- 九月十八日～二十四日 彼岸会
- 十月十八日 眼鏡供養会
- 十二月十八日 眼病封じ祈願会
納め観音

※毎月十八日(二月、六月は除く)は観音(縁日)です(申込制)

〒635-0102 奈良県高市郡高取町壺阪3

TEL 0744-52-2016 <http://www.tsubosaka1300.or.jp>

納経時間 午前8時30分～午後5時

仏教用語一口解説

涅槃とは

仏教では燃え盛る一切の煩惱の火を吹き消して、悟りの智慧を獲得した境地を言います。迷いから自由となる悟りの世界のことであり、仏教徒が目指すべき究極の境地のこと。仏様の居る所はそういう世界でしょうが、現世で煩惱を完全に無くする事は無理でしょう。しかし煩惱を抑え、自分の思い損得を離れ、慈悲の心で人々と接する事を心がける事が大切なのです。